

大曲工高 5年ぶり準V

手作りのコンクリート製カヌーで速さを競う「第28回土木系学生によるコンクリートカヌー大会」（土木学会関東支部主催）が、東京都江東区の海の森水上競技場で開かれ、出場した全国24チーム中、大仙市の大曲工業高校が5年ぶりの準優勝を果たした。

大会は今日5日に行われ、大学・高専の部に9校9チーム、高校の部に13校15チームが参加。カヌーの構造や工夫した点などを競う書類審査部門や、カヌーをこいでタイムを争うレーズ部門の合計点で順位を決めた。

大曲工高のメンバーは土木・建築科土木コース3年の佐々木大喜主将、伊藤亜美さん、大阪弥輝さん、齊藤民翔さん、土崎仁聖さんの5人。書類では高校15チーム中1位となり満点を獲得した。レースは大学・高専も含めた全チームで行い、予選、準決勝をそれぞれ1位で通過。決勝では3位に入った。

土木コース3年生5人

5人は課題研究の授業の一環で4月から準備を進めた。2人乗りで全長4.6m、重さ68kgのカヌーは、鉄筋などで型枠を作り生コンクリートを塗り付けて制作。側面にはカヌー名「DAIKO FIGHTERS」（大工ファイターズ）の文字をあしらひ、7月半ばに完成させた。

夏休みに入ってからはずっと1日3時間ほど練習を重ねた。佐々木主将は「優勝を狙っていたのでうれしさ半分、悔しさ半分。大変だったが、仲間と放課後や休日も集まって頑張った

「うれしさと悔しさ半分」



準優勝した大曲工高の生徒と山崎教諭

ので思い出に残った」と話した。山崎教諭(63)は2004年から同校を指導し、17年までに3度優勝に導いている。準優勝は今回で4度目。「昨年は僅差で4位と

なり入賞を逃したので、準優勝できて良かった」と語った。

(佐藤将弥)